

たかおか出張所だより No.26

H23. 11. 15 発行

[発行・問い合わせ先]

国土交通省 宮崎河川国道事務所 高岡出張所
TEL0985-82-0102 FAX0985-82-0227
〒880-2221 宮崎市高岡町内山2610-1



水辺を歩こう! 大淀川周辺 高岡地区散策ガイド

高岡地区には、武家屋敷の町並み、深い照葉樹林と清流、島津氏の史跡や大イチョウなどみどころがたくさんあります。過ごしやすいこの季節にぜひ散策してみてください。

77 化石の出る河原

入口が分かりにくい、「下赤谷バス停」近くの樹林の切れ目から入れる。細い道(荒地)を下りるといきなり視界が開け、広い河原と大淀川、切り立った崖が目飛び込んでくる。この崖の岩からは貝の化石が顔を出していて、大昔は海の底だったことが分かる。



80 境川・川遊びポイント



子どもも大人も川遊びが楽しめる最適なスポットがここ。宮崎方面から国道10号山下橋を過ぎて左に入り、境川そいに山道を10分ほど走ると左に見える。深い淵と清らかな水、空気が待っている。

81 やな川キャンプ場

境川沿いの深い樹林に囲まれたキャンプ場でまさに秘境。溪谷の自然を満喫したい方には最適なスポット。夏期のみ開いているので、利用するときは事前に高岡総合支所に要確認。



70 高岡特殊堤



大の丸橋から上流に高岡町市街を守る特殊堤がある。堤防はふつう土で作るが、高岡市街地のように建物が集中しているところでは十分な広さがないため、特別に石やコンクリートで作る。この特殊堤の前には、階段護岸とともに石造りの水制が整備されている。きれいに整備された階段護岸は朝夕の散歩などには最適で、目の前には大淀川の雄大な流れ、振り返ると高岡のシンボル天ヶ城がのぞめる。

75 瓜田ダム公園



瓜田川上流にある瓜田ダム周辺の自然と高低差を生かした公園で、アスレチック広場やウォータースライダーの付いた自然プール、草スキー場、魚つり広場がある。緑深い環境なので野生ザルやタヌキ、カワセミが姿を見せることも。敷地内の資料館ではダムの歴史や高岡町の観光を紹介している。



65 栗野神社



格式の高さを感じさせる本殿



寺たかすく橋に架かる「スズキのやな」

宮崎市から国道10号線を都城方面に進み、旧道沿いの高岡市外入口にある。創建は延暦年間(782)と伝えられている。神社は大淀川に面しており、『三国名勝図鑑』では、川からの階段を上って鳥居に向かう人が描かれていて、今も川に下りる階段は残っている。神社のすぐ前に9~11月にかけて「スズキのやな」がかり、この地の風物詩になっている。

69 龍福寺跡仁王像

この仁王像は、江戸時代の高岡の豪商の寄進といわれ、寺の守護神として配されていた。



仁王像は、口を開いた像が「金剛」で「阿(あ)像」、口を閉じた像が「力士」で「呌(うん)像」と呼ぶ。2人で気持ちが合うことを「ア・ウン」の呼吸法というけど、ここからきている言葉。

71 月知梅



大淀川を挟んで高岡市街の対岸に、名高い月知梅がある。臥竜梅(がりゅうばい)という種類で、1株だった枝が地を伸び、その枝から根が次々と出て60株に広がった。樹齢200年。毎年2月の中旬頃に満開となり、多くの人が楽しみに訪れる。

72 島津久豊の墓

月知梅から日南・高岡線を下り、「門前」交差点の手前に集会所があり、その裏手に島津久豊の墓がある。この墓は安政4年(1857)に島津氏によって創建されたといわれている。

66 河上家武家門



風格あるたたかすく河上家武家門



河上家武家門は高岡市河上町の河上家に伝わる。門の構造は、土間に石を積み上げたもので、門柱は、石で造られている。

交通量の多い赤谷・橋山線から一歩町の中に入ると、思わずタイムスリップした気分になる。苔むした石垣に細い路地、板塀の家並みなど、まるで江戸時代のような。中でも武家門は格調があり、石垣と見事に調和している。河上家の武家門は観音開門の代表的なものである。今から約280年前のもので、現在町立武道館の門として復元されている。

67 市来家長屋門



長屋門は、門の出入り口通路の両側または片側に部屋が設けられている。高岡町内では市来家長屋門が現存する唯一のもの。長屋門として他に例がない貴重なものだそう。

68 安藤家武家門と石垣



河上家武家門と同様に観音開きで、薩摩藩独特の腕木門の特徴を色濃く残しているという。門をくると「高岡町中央ふれあい広場」になっていて、休憩所やトイレも整備されているのでゆ〜は目覚めさ

73 穆佐城跡

日南・高岡線をさらに下り番所橋を渡ると穆小学校がある。小学校の裏山が穆佐城の跡で、20~40メートルの台地の上に穆佐城があった。

74 穆園広場 (高木兼寛生誕地)



番所橋から約500メートルで高木兼寛の誕生地があり、穆園広場として整備されている。高木兼寛は高岡町穆佐の生まれで24歳で海軍軍医となり、当時不治の病といわれていた脚気(かっけ)の原因をつきとめた人。ビタミンの父と呼ばれている。

高岡石



高岡市で目にする高岡石は、高岡市河上町の河上川に産出する。高岡石は、高岡市河上町の河上川に産出する。高岡石は、高岡市河上町の河上川に産出する。

76 天ヶ城公園



大淀川と宮崎平野が一望できる

高岡総合支所、西の急な坂を20分ほど上ると高岡城跡の一郭、天ヶ城跡に着く。城跡は資料館になっており、最上階からは雄大な大淀川の流れや、宮崎・本庄などの眺望が楽しめる。公園一帯は桜やツツジの名所で、春ともなると大変なにぎわいみせる。

78 赤谷の石橋

県道赤谷・橋山線が国道10号線に合流する手前に、小さな石橋の「鶉の谷橋(1号橋)」「赤谷橋(2号橋)」が残っている。ツタに覆われ、道路を走っていると分かりにくい。明治20年代に作られたものらしい。この石橋は、いずれも太鼓橋で、有名な肥後の石工「岩永三三郎」系の技術で造られているようだ。

■主に上流で見られる魚



84 去川の大イチョウ



去川小学校脇の小径を車で5分ほど走らせると、田んぼの中にデーンと出現する「去川の大イチョウ」は樹齢約800年。幹周り約10メートル、高さ41メートルの巨体は、国の天然記念物に指定されている。



83 二見家墓石群と二見家屋敷

去川の関とは国道10号を挟んで反対側に、去川の関御常番だった二見家の墓石群がある。二見家は初代二見石見守久信が勤めて以来12代にわたり関守を勤めた。また、去川関御常番二見家屋敷は、薩摩街道に面した小高い場所にあり、腕木門や石垣、庭園など往事の面影をよくとどめている。

82 去川の関跡

国道10号沿いに「去川の関跡」がある。去川の関は、薩摩領内9ヶ所の関所の中でも日向口の重要な地点で大変厳しい取り調べが行われた。たとえ手形を見せて関所を無事通ることが出来ても、怪しいと思われると遠くに行かないうちに惨殺されたという。それほど厳しかったので「魔の関所」としておそれられてた。「薩摩去川に関所がなくば 連れて行こうものを身どもが国に…」この里唄が、関所の厳しさを物語っている。

★出張所からのメッセージ★

つい先日まで真夏日を記録してましたが、急に寒くなってきましたね。今年は、去川の大イチョウが色づくことなく散ってしまったようでとても残念です。全国各地、世界各地で水害などが頻りに発生しています。急な災害に備えて日頃から準備をしておきましょう。

宮崎河川国道事務所のホームページでも、雨量や水位状況を知ることが出来ますのでご活用ください。

宮崎河川 国道事務所
<http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/>

